



KUROISHI  
HIGH SCHOOL

黒石高校は令和7年度、  
創立100周年を迎えました。

青森県立黒石高等学校情報デザイン科 第35回全国産業教育フェア福島大会 作品展示資料

# ～地方鉄道沿線における 産学官連携事業実践報告～

本科は開設から6年を迎えるまだ若い学校であるが、「地域共創・未来創造」というテーマを掲げ、地域の多様な諸団体との主体的な関わりを通じて協働的デザイン活動を実践してきた。ここでは主に令和3年度実施の「バズる商品開発」以来関わりの深い地方鉄道弘南鉄道弘南線への沿線企業等の広告制作と掲出までのプロセスを紹介し、高校生が取り組む「地域のこし」に関する実践事例について報告する。

- I 高校生と考える中南地域ビジネス創出事業 「バズる商品開発」  
(連携団体：中南地域県民局地域連携部、弘南鉄道株式会社、各種事業所)
- II 令和6年度「産学官連携による地域デザイン」事業  
(連携団体：黒石商工会議所、弘南鉄道株式会社、中南地域県民局地域連携部)

※今回の展示内容は、「令和4～6年度 黒石高校情報デザイン科実践成果報告資料」より作成したものである。

# 高校生と考える中南地域ビジネス創出事業 「バズる商品開発」 (連携団体：中南地域県民局地域連携部、弘南鉄道株式会社、各種事業所)

## 1 概要

黒石高校情報デザイン科開設から2年目となる令和3年度から2年間、弘南鉄道沿線にある地域資源と高校生のアイデアを掛け合わせた「バズる商品開発」事業に取り組んだ。年間を通じて発売元事業者はもとより多様な講師をお招きして、地域の魅力を探ることやアイデアの出し方、プロモーションの方法等を学び、ビジネスとデザインの関わりについて実践的体験をすることができた。各年度3商品ずつを開発し、商品は各事業所やファミリーマート、大手商業施設等で販売された。「私たちは弘南鉄道を応援しています」という合言葉のもと、売上の一部は「弘南鉄道支援金」として活用され、このことが地方鉄道を中心とした本科取り組みの先行事例となった。

中南地域県民局地域連携部

### 高校生と考える中南地域ビジネス創出事業費（庁内ベンチャー）

#### 「バズる商品開発事業」事業提案図

#### 現状と課題

##### 現状

- ◆コロナ禍により、中南管内の事業者の厳しい経営状況が続いている。
- ◆人口減少により、地域課題も顕在化。
- ◆中南管内には弘南鉄道の沿線を中心に、活用すべき食や観光等の資源が豊富。
- ◆沿線の活性化、地域課題の解決のためには将来を担う若者の参画が不可欠。弘南鉄道沿線には管内の7割の高校が存在している。

高校生が参画し、継続的に沿線の地域資源を活かし、魅力向上や課題解決に取り組んでいくに当たり、下記の課題が生じている。

##### 課題

- ◆地域資源を活かしたビジネスの創出
- ◆実際に地域課題解決に取り組む地元事業者や地域とのつながりの構築
- ◆高校生が継続的に参画し、地域貢献の意識醸成につながる仕組みづくり



#### 事業内容

##### 【概要】

弘南鉄道沿線の地域活性化を図るため、沿線高校生、地元事業者等と連携し、沿線資源を活かしたビジネスの創出、高校生を主体とした魅力発信、高校生と地域とのつながりを促し、地域共生社会に資する仕組みづくりを行う。

#### 1 高校生と地域プレイヤーによる地域ビジネス創出事業

##### (1)バズる地域ビジネス創出事業

- ・高校生と地元企業等との連携により、「バズる（話題沸騰）」をキーワードに新たなビジネスを創出する。
- 例）観光事業者と連携し観光商品開発  
食品加工業者と連携し土産商品開発 など

##### (2)地域プレイヤー出前授業

- ・管内高校の課題研究授業に地域課題に取り組む人材を派遣（3校×2回）

#### 2 弘南鉄道沿線学生による文化祭開催

##### ●実行委員会の設置

- ・弘南鉄道沿線商工団体、地域づくり団体、地元事業者、弘南鉄道、行政による実行委員会を設置し、文化祭の各種検討等を行う。

##### ●文化祭の実施

- ・鉄道の日（10/14）を中心に駅舎等でイベント実施。
- ・既存の高校部活動の発表の場とするほか、アート、ダンス、アニメなど、テーマを選定し、地元事業者と連携する。

#### 3 高校生と考える、地域共生社会に資する仕組みづくり

##### ●検討委員会の設置

- ・地域共生社会に資するボランティアを誘発するための仕組み（ボランティアの対価となるチケット制度等）について検討。〈メンバー〉  
有識者、弘南商工会議所、高校関係者、IT事業者等。

#### 事業効果

事業完了後には沿線に新たなコンテンツが造成され、魅力が向上し、地域活性化につながる。

高校生の地域の魅力向上や課題解決に関する意識の醸成が図られる

#### 具体的な事業成果（見込み）

- ◆弘南鉄道沿線におけるビジネスの創出
- ◆文化祭における多彩な取組の展開
- ◆地域共生社会に資する仕組みの構築



#### 【今後の方向性】

- 取組1は地域プレイヤーと高校生の取組として継続。
- 取組2は実行委員会を中心に継続。
- 取組3は検討委員会を中心に継続。

## 2 活動の様子と活動の成果 ※開発商品や販促物一式の紹介は下図もしくは別添ファイル参照のこと



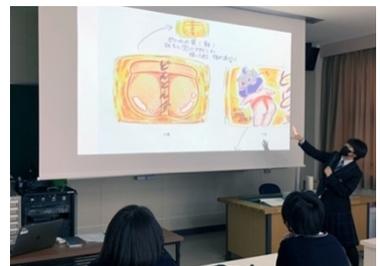
左・上・下：参加事業者との打合せおよび意見交換会の様子

中央上：リンゴミュージック代表樋川新一氏によるワークショップ

※本事業に関わって外部人材を活用しての講演授業・ワークショップ等、初年度は計5回にわたって実施した。

中央下：事業者を交えてのパッケージデザインブラッシュアップ

右下：学科内におけるパッケージデザインコンペティション



展示作品：令和3、4年度開発商品

# 弘南鉄道応援商品 「バズる商品開発」



「弘南鉄道チャレンジパン」(R3開発商品)  
発売元：有限会社 ANEKKO



「どんどんず」(R3開発商品)  
発売元：いなみや菓子店



「枝豆すぎるプリン」(R4開発商品)  
発売元：萩原乳業株式会社



「わんこのうんこ」(R3開発商品)  
発売元：株式会社 GARUTSU



## ● 黒石市

「ラッセル君 挟んじゃいましたか・・・」  
(R4開発商品)  
発売元：ももさわ菓子舗



「りんごパンなのか!!カレーパンなのか!!  
どっちなんだい!りんごカレーパン!」  
(R4開発商品)  
発売元：株式会社 工藤パン



キーワード「私たちは弘南鉄道を応援しています」

## 令和5年度より「広告をつくる」事業へ

### ◆ 広告制作のための4つの基本姿勢 ◆

みなさまからの広告依頼で「地域の誇り」を表現します。  
みなさまからの広告依頼で「生活者の足」を支援します。  
みなさまからの広告依頼は「企業の使命」に貢献します。  
みなさまからの広告依頼を「生徒の教育」に役立てます。

# 令和6年度「産学官連携による地域デザイン」事業

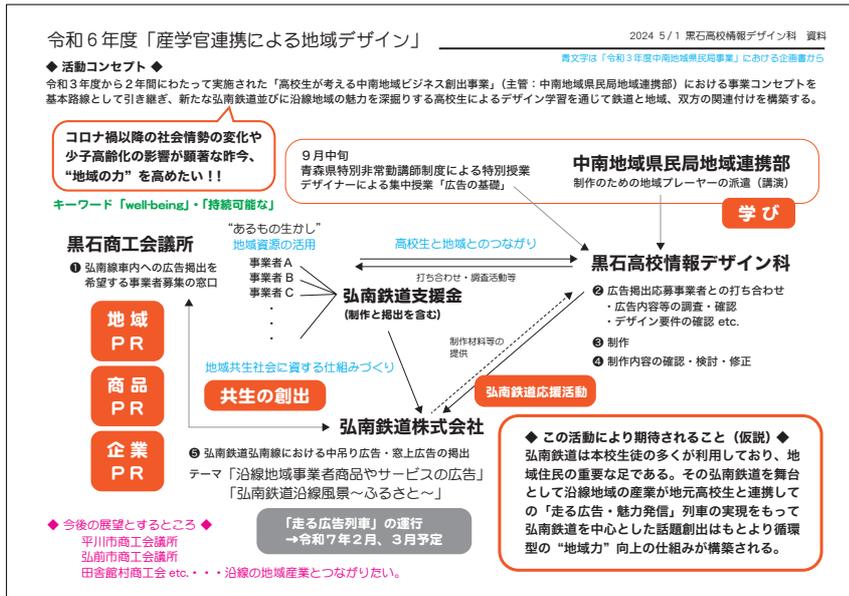
(連携団体：黒石商工会議所、弘南鉄道株式会社、中南地域県民局地域連携部)

## 1 概要

本科では令和3年度及び4年度の2年間にわたって、中南地域県民局主導による「高校生と考える中南地域ビジネス創出事業」として「バズる商品開発」に取り組んできた。地域資源と高校生のアイデアの掛け合わせによる弘南鉄道沿線の活性化を目指した事業であったが、昨年度から本科が主体となってその趣旨を継続し、かつ学科の特徴を活かした地域デザイン事業に取り組んでいる。具体的には地元事業者の商品・サービスについての弘南鉄道車両広告を本科2年生徒が制作し、そのことにより生じる広告料を弘南鉄道支援金とする取り組みであり、併せて弘南地域の魅力を発信する「走る広告列車」の実現を目指すものである。結果、1年目である令和5年度は18事業者の広告制作にあたり、令和6年度は24企業・団体等の掲出希望をいただき、計26作品を制作・掲出することとなった。



▲令和5年度 同事業「活動のまとめ」の様子  
令和6年3月25日(月)実施  
弘南鉄道株式会社代表取締役 成田敏氏(後列左から2人目)と中田正志業務部長(前列左から2人目)をお招きし、活動の成果目録を贈呈した。本校からは代表生徒6名と小野淳美校長(当時)が参加した。



超お得! 弘南鉄道車内広告 掲出希望社募集!

特別企画「走る広告〜弘南地域魅力発信列車の運行〜」  
主催/制作：青森県立黒石高等学校 情報デザイン科  
協力：弘南鉄道株式会社、青森県中南地域県民局地域連携部、黒石商工会議所

広告の種類 次の①〜③

①中吊り広告  
1口 ¥10,000 29日間掲出料  
幅：364mm 横：515mm

②ドア横広告  
1口 ¥10,000 29日間掲出料  
幅：364mm 横：515mm

③棚上広告  
1口 ¥7,000 29日間掲出料  
幅：279mm 横：950mm

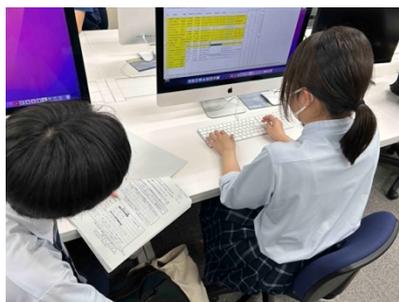
7/31 申込締切

◆この活動により期待されること(仮説)◆  
弘南鉄道は本校生徒の多くが利用しており、地域住民の重要な足である。その弘南鉄道を舞台として沿線地域の産業が地元高校生と連携しての「走る広告・魅力発信」列車の実現をもって弘南鉄道を中心とした話題創出はもとより循環型の「地域力」向上の仕組みが構築される。

▲左図表/本事業の企画フロー図 右図版/昨年度の成果による事業広報用ポスター

## 2 活動の様子

### (1) 黒石商工会議所への事業者募集依頼 (令和6年5月20日)



黒石産業会館に黒石商工会議所 新岡常雄会頭を訪ね、代表生徒から、「この活動で、沿線地域が豊かで元気になるように願っている」と約900件にのぼる商議所会員への情報周知を依頼した。(写真左)

それを受けて7月中旬、申込事業者の集計作業と詳細情報の取りまとめを行なった。当初目標とした24事業者の参加依頼を受けることができた。(写真右)

(2) 地域プレーヤーによる特別講義と特別実習、特別授業「広告制作演習」(9月集中授業)



地域のデザイン分野において活躍される方々のお力をお借りして、広告表現についての学習を深化させることが当該特別講義及び実習の目的である。講師派遣に係るコーディネートは中南地域県民局にお願いし、今回、以下の事業を展開させていただいた。

写真上段左／地域プレーヤーによる特別講義「地域の産業とデザインの関わり」

講師：小野大輔氏(青森県産業技術センター 工業総合研究所 総括研究管理員)

写真上段中／地域プレーヤーによる特別実習「スマートフォンによる撮影のノウハウ」

講師：西川孝治氏(スタジオ2グラム・主宰)  
上から順に、9月3日、9月5日実施



左記のことは別に本科では毎年、県による特別非常勤制度を活用させていただいている。今回は写真の活用及びディレクションに焦点をあてた授業を連動・実施した。(上段右、下段2枚写真) 特別授業「デザイナーにとって“写真”とは？」

講師：川村将久氏(デザイナー) 9月11日～13日実施

(3) 事業者との打合せ、ヒアリングの実施(令和6年10月10日～28日)



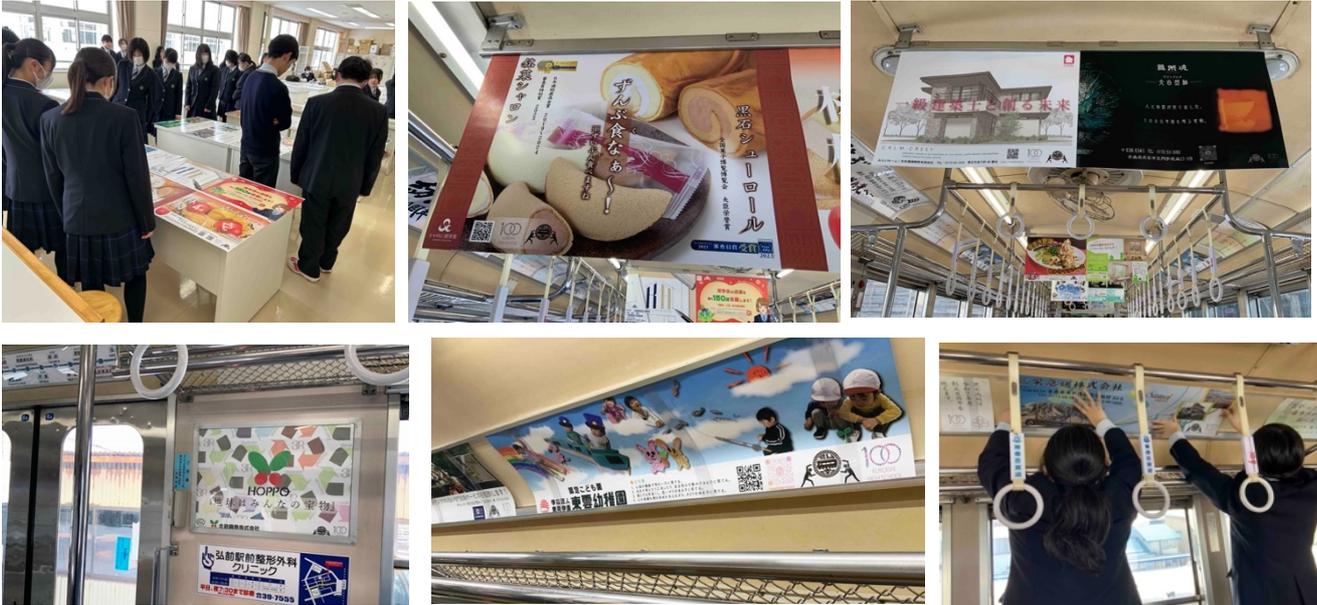
上段写真左／名刺交換風景～12ある担当チームはそれぞれの名刺を作成・準備し、今後の連絡の取り方等を確認した。  
上段写真中／依頼事業者との打合せ風景～持参していただいた事業者の資料をもとに、デザイン要件を確認した。  
上段写真右／依頼事業者との打合せ風景～過年度制作の広告を紹介しながら、希望するデザインの傾向をリサーチした。

(4) 企画書の作成(令和6年11月中旬まで)



上段写真左／りんご販売事業者を扱った企画書例～ヒアリングから得られたキーワードから広告3案を提案している。  
上段写真右／アルミ製品修理事業を扱った企画書例～制作のコンセプトと方向性を明確に文章化し、表現している。

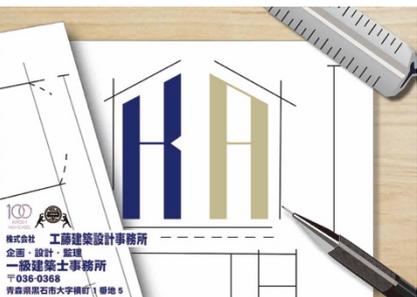
(5) 広告の完成と掲出 (前半: 令和7年1月31日~、後半: 同年3月1日~30日まで掲出)



上記写真は掲出状況を示すものであり、質的な高さが十分感じられる広告内容となった。当初、実際の事業者とのやり取りに気恥ずかしさを感じていた生徒も、その後の確認作業等を通じて信頼関係の深まりを感じているようであった。そのこと自体が生徒の成長を表しているが、活動の振り返りでは、ヒアリングの際の傾く行為の重要性や内容確認の際には「いついつまでに」という期限を明示すること等、ビジネスにおける基本を十分に学ぶ機会となっている。

3 成果物 (一部作品の紹介)

棚上広告 (950mm×278mm) ※横長の広告  
中吊り広告、ドア横広告 (515mm×364mm)



●紙面の都合上、本資料に作品を掲載していない企業及び団体一覧 (敬称略)  
 有限会社小野商会／三栄急送株式会社／株式会社大和コンサルタント／Orbray 株式会社／黒石つゆやきそば伝紹介  
 長内サッシ工業(株)／伊原塗装／県子ども家庭部若者定着還元促進課  
 ※ご協力、ありがとうございました。

#### 4 活動のまとめ（令和7年3月24日）

令和6年度は24事業者並びに団体より広告制作の依頼を受け、制作した広告は令和7年2月と3月、本校創立100周年を記念するラッピング電車に掲出し、地域産業はもとより地域の魅力を発信するという事業目的を達成することができた。

この日、関係者が一堂に会し、令和6年度の活動報告並びに制作作品の目録を弘南鉄道株式会社社長に贈呈した。広告制作費は無償であり、掲出料は「地域の足」と言われる弘南鉄道支援金として有効活用されることになる。その活動こそが「地域資源をのこす」一助となっている。



上段写真左／広告の掲出状況      その他写真／「活動のまとめ」作品目録の贈呈、各班作品の解説、記念写真

## 5 地域資源の有効活用～創立 100 周年記念ラッピング電車の運行と令和 7 年度事業の開始

下写真／ラッピング電車は令和 6 年 1 月 5 日～令和 7 年 10 月末日までの運行  
 令和 7 年度の広告掲出事業は令和 8 年 2 月 1 日～3 月 30 日まで



上図車両デザインについて

令和 7 年度、本校は創立 100 周年を迎えることから、令和 6 年 1 月 5 日からの 1 年間、上図デザイン車両を運行した。車内は令和 7 年 4 月 1 日より 100 周年成功を願う PR 広告とし、創立記念事業の成功を願った。



写真右／令和 7 年 6 月 2 日、黒石商工会議所を訪問し、今年度の広告制作事業協力依頼を行なった。「先輩たちは、この事業がよりレベルアップすることを期待して後輩に引き継いでくれました。より一層印象に残るような実践活動を行いたいと現在準備しているところです。」(生徒挨拶から)  
 今年度事業の実質的な取り組みは、10月6日より随時実施のヒアリング活動から開始される。

